



バードライフファーム

オーナー バードライフ・インターナショナル東京
水田面積 25アール
保証量 玄米1125kg
形態・品種 特別栽培コシヒカリ
ブランド 「海」
Co2回収 約2500kg

生産者

米風土鳥取



ここ日南町に初めて避難勧告がでた年でしたが、幸いにも大宮地区は日南でも最も被害の少ないところでした。その後は大変暑い日が続いていますが水には困らない日南町のコシヒカリは順調に育っています。台風が来なければ、今年が良い年になるでしょう。

7月の作業内容と稲の状態

電気柵の設置

毎年イノシシの出現回数や範囲が広がっているように感じます。成長前の稲には目もくれず、美味しそうになる頃を見計らってやってきます。早めに対策するほかないため、6月末から設置を開始していきますが、範囲が広いとかなりの重労働となります。



電気柵の設置

中干し（なかぼし）

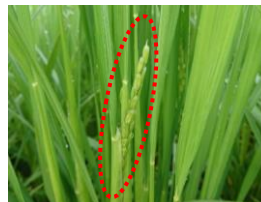
田んぼの水を抜いて完全に土の表面を乾かします。水を切れば稲に水分・栄養がいきませんので過剰な分けつ（枝分かれ）を抑えることができます。また土の表面が固まると収穫時のトラクターを安定して走らせることができるメリットがあります。



中干しをしている水田

出穂（しゅつすい）

稲の成長において穂のもととなる幼穂（ようすい）が葉の茎のような筒状っぽいの中で発達し、それが表に出てくることを出穂と言います。ここから開花・受精し、その後玄米の長さ、幅、厚みが順番に決まっていく大事な時期に入ります。



出穂（赤点線枠が穂がでてきた状態）



稲の花



7月下旬の稲